

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校高山日赤分校

学校番号

1 1 9 B

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～
評価する領域・分野	教育活動の周知
現状及びアンケートの結分析等	アンケート結果では、校外作品展や交流学习等、人と触れ合う機会をとおして教育活動の周知に努めていることに肯定的な評価を得られている。作品展や写真展が定着してきたことと、居住地校交流の機会が増えていることで理解を得られていると考える。校外写真展等においても、地域の多くの方から感想などをノートに記入いただいております、継続して取り組んできた学校周知により、学校の認知度は高まっていると考えられる。今後は、当校の教育活動の内容について知っていただけるような機会を設定し、児童生徒の理解啓発を推進していけるとよい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校見学会の機会を設定し、児童生徒の教育活動を周知する。 ・ 写真展や作品展の場を利用して、教育活動の内容を周知する。 ・ 校外学習や交流学习等により人と触れ合う機会をもち教育活動を周知する。 ・ ホームページや学校だよりにより、教育活動をタイムリーに発信する。 ・ P T A会報や地域行事への参加により、教育活動を周知する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教務研修部、支援センターを中心に、市内学校向けの学校見学会を開催する。 ・ 生活進路支援部を中心に、関係事業所向けの学校見学会を開催する。 ・ 各部における校外学習や居住地校交流、学校間、地域交流を推進する。 ・ 学習支援部を中心に、写真展、作品展等を計画、実施する。 ・ 学習支援部、情報担当者を中心に、ホームページで教育活動の紹介をする。 ・ P T A活動（広報）と連携した地域への発信をする。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校向け学校見学会の対象に特別支援教育コーディネーターを加える。 ・ 学校見学会に向け、学校説明動画を作成し、授業内容等の情報も提供する。 ・ 交流学习前の事前打ち合わせを丁寧に行い、必要に応じて相手校の児童生徒に児童生徒理解を促すための事前指導を行う。 ・ 作品展の作品の横に、作品作りの目的や活動の様子を具体的に掲示する。 ・ 作品展、写真展のチラシを作成し広報活動に使用する。 ・ ホームページに掲載する活動と担当者を年度当初に決める。 ・ 写真展等の会場に、紙漉き製品（ホームページのQRコード付きしおり）や学校案内を置き、学校紹介を積極的に行う。 ・ P T A会報の地域への発信に協力し、関係機関等に配布する。 ・ 地域の芸能発表会にP T A活動として参加し、学校紹介展示等に協力する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校見学会や写真展や作品展等を通して、保護者や地域の方々に当校の教育活動について理解啓発ができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会の紹介により主任児童員による学校見学会を実施した。 ・ 小中学校向けの学校見学会、関係事業所向けの学校見学会を開催した。 ・ 居住地校交流では、保護者の協力により、児童について語り合う時間をもち理解を深めることができた。 ・ 小学部4 5 6年生が本校と一緒に高山市の音楽会でステージ発表をした。 ・ 作品のキャプションに、作品作りの目的や教材の工夫の様子、児童生徒の様子を丁寧に説明するようにした。 ・ 写真展等のチラシを、児童生徒が学校近隣の店舗の方に直接手渡したり、

	<p>学校のフェンスやホームページに掲載したりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真展に寄せられた感想などをホームページに掲載した。また、全校行事や各部、学年の活動を、ホームページで紹介した。 ・写真展に置いた紙漉き製品や学校案内を多くの方が持ち帰ってくださった。 ・PTA活動として参加した花里芸能発表会では、校区の小学校4年生と一緒に、ポッチャの紹介をした。担当職員が事前に相手校に出向き、学校や児童生徒についての事前学習を行った。
評価の視点	評価
① 学校見学会や交流活動等様々な機会をとらえ、教育活動周知に努めることができたか。	A (B) C D
② 写真展等により、学校の教育活動や児童生徒の様子を分かりやすく伝えることができたか。	A (B) C D
③ ホームページや学校だよりで、保護者や地域の方々に当校の教育活動についてタイムリーに発信することができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>○学校見学会を実施したことで、地域の児童委員の方等に初めて学校を知っていただいた。また、学校見学会等では、作成した説明動画を活用できた。</p> <p>○居住地校交流等の事前打ち合わせを丁寧に行うことで、相手校への理解啓発をすすめることができた。また、本校と分校の交流の機会も増えた。</p> <p>○写真展等のチラシを児童生徒が配ることで、近隣の方と触れ合うことができた。</p> <p>▲学校見学会に市内の小中学校のコーディネーターの参加がなく残念だった。また、関係事業所向けの学校見学会の参加者が昨年度よりも減っていた。</p> <p>▲教育活動を周知するためには、教員自身が活動の目的や有効な手立てを説明できるようにする必要がある。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市教育委員会や本校と連携した学校見学会を実施することで、小中学校のコーディネーター等との連携を図れるようにする。 ・センター的機能を積極的に活用してもらえるように機会を捉えて周知する。 ・生活介護事業所等の関係事業所と放課後等デイサービスの見学会を合わせて実施するなど、学校見学会の計画を見直す。 ・MS リーダーズ活動等、地域での活動の機会を捉えて教育活動の周知をする。 ・ホームページ等を活用した積極的な発信を継続し、保護者や地域に当校の教育活動について周知を図る。 ・教育活動の充実を図り、教員が自信をもって周知できるよう研修を深める。

学校関係者評価 (令和6年12月16日実施)

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者等への周知として、新着情報や更新を分かりやすくし、ホームページを見やすくするとよい。本校と分校のホームページをリンクさせるとよい。 ・今回授業参観をしたが、保護者が他の児童生徒の授業を参観する機会があってもよいのではないか。 ・居住地校交流のとき、特別支援学級だけでなく通常学級の児童生徒にも知ってもらえるように、掲示等の工夫ができるとよいのではないか。 ・地域の小中学校との交流はどんどんやってほしい。双方向の交流を大切にすることでお互いに学ぶことがある。 ・地域の学校に、特別支援学校の考え方や支援の手立てを伝えてほしい。 ・分校の立地環境から知らない人も多い。本校の行事等を機会に分校のことも知ってもらえるとよい。 ・他校との交流も大切だが、本校と分校のつながりが深まる活動を設定できるとよい。